

# 紙方式とデジタル方式のリフレクション活動に関する研究

田村 禎章<sup>1</sup> 田中 雅章<sup>2</sup>

Email: s\_tamura@jc-humanitec.ac.jp

ユマニテク短期大学<sup>1</sup> ユマニテク看護助産専門学校<sup>2</sup>

◎Key Words : リフレクション活動, アクティブラーニング型授業, 学習分析

## 1 はじめに

大学等の教員養成課程では、専門教科や教授法の知識や技術を具体的に学ぶため、アクティブラーニング型授業の実践例が報告されている。その教育法の一つとしてリフレクション活動がある。リフレクションの起源をさかのぼると30年以上前に提唱された「大福帳」にたどり着く。学生と指導者（教員）が紙を媒体として手書きカードで指導者と学生とを行き来する連絡カードである。

リフレクション活動の利点は自由記述ではあり、授業アンケートを毎回実施している事と同等である。授業毎に受講生からの授業に関するコメントや質問や学生から得られた情報に基づき、授業の内容の微調整をしながら学生の意見を反映させることが可能である。

## 2 紙方式リフレクションの効果と限界

大学等で行われる多数の受講生（学生）を対象とした一斉型の授業では受講生の個々を把握することは容易ではない。一般的な方法では受講生との信頼関係を確立するにはかなりの時間を必要とする。

リフレクション活動におけるコメントや回答は受講生個人に対する個別のメッセージである。リフレクション活動は指導者と受講者とを相互に結びつけるための環境を提供している。指導者の作業負担はあるものの短時間でほぼ全員の受講者との信頼関係を形成する唯一の方法であると言える。

しかし、新型コロナが流行したために非常事態宣言やまん延防止措置の発令で、通常の対面授業が不可能になった。それは、紙媒体によるリフレクション活動も継続できなくなることを意味する。教員が学生の記入したリフレクション活動の内容を確認できるのは全ての授業が終わった時である。これでは学生の理解度に合わせて授業内容を軌道修正しながら授業を進めることができない。つまり、学生のコメントを授業改善にフィードバックもできない。

## 3 実装したリフレクションの概要

実装したリフレクション活動の仕組みを説明する。

「Google Form」はスマホからデータを受け取ると学生へは入力確認メール、管理者へは提出通知メールが届く。Google Formで受け取ったデータは、関係された「Google Spreadsheet」に加えられる（図1参照）。

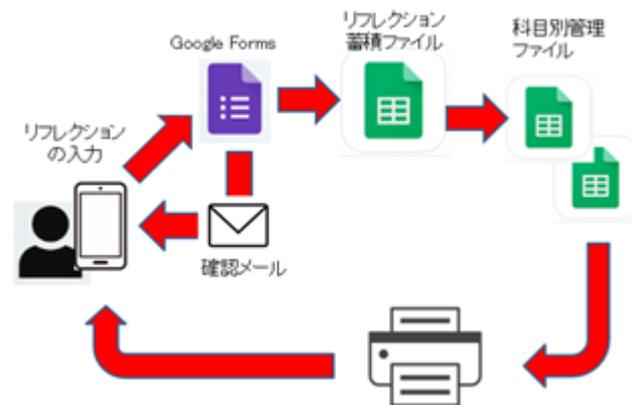


図1 実装システムの概要

学生から提出されたリフレクション活動が蓄積されたファイルから、科目別に科目別管理ファイルが抽出される。科目別管理ファイルは学生の提出状況が出席簿のように確認できる。また、科目別管理ファイルから、学生別にコメント一覧を抽出印刷する。印刷したプリントを学生へフィードバックすることで全体の振り返り活動ができた。リモート授業になってからは、スマホアプリから提出状況とコメント一覧が閲覧できる機能を実装した。

## 4 まとめ

リフレクション活動は、大学等の教育において指導者と受講者との信頼関係を短時間で培うことを可能にした。さらに受講者の学習状況の詳細を容易に把握し、受講者の学習活動をより活発化させる事ができる。この度、実装したリフレクション活動の仕組みは、コロナ禍であってもリフレクション活動が継続でき、副次的効果として、紙を媒体とした手書き方式と比べ文字数が桁違いに多かった。リフレクション活動のシステム化で学生の学習行動や学習分析で明らかになった。学生にリフレクションを早めに提出する習慣づけを指導することの大切さが示唆された。